

## 臺灣鐵道の保護

臺灣鐵道の保護

臺灣施設の急に可きものにして足らざるもの就中第一の必要は島内の運輸交通と便にする在り左れば回鐵道の用地並に既設鐵道無代價下付の特典を與へたるが如き鐵道助成の方便として至當の處置なり我輩は只その速成を期るのみ島地の有様を見れば土匪の騒動未だ跡を絶たざるのみか總督府所在の地は時々襲撃を免かれざる程の次第にして一般の狀態自から極端に謹がらず自下の急は何は兎もあれ島内の安全を保つの一ことに於て現に守備隊の如きは一師四半の兵數を備へ又憲兵巡査の配備も少なからず或は更に士官訓練などの講もあるよしに保安の設備敢て怠るに非されども如何せん被地の現状に於て軍隊は勤、處々に分屯せざるを得ざるが故に土匪討伐の實際は恰も堪能と一般、影を見れば忽ち之を追ひ追へば忽ち散するの姿にして只兵士をして命に疲れしむるのみなりと云ふ本來を云へば平常保安の事は總て憲兵巡査に一任して軍隊は要所に集中し儼然守備の本能を守りて容易に動かすいふく不穩の實を見るに及んで一番直に被地の効力を發揮するふぞ威嚴を保つ所以なれども實際に然る能はざるは交通の不便よりして鐵中の便宜を得ざるが爲めに外ならず左れば被地に鐵道の急要是此一點より見るも明白にして臺灣の經濟に就ては何以茲置き軍事用として敷設可き筈のものなるに政府は經費多額の故として保護の如き固より至當の處置と云はざるを得ず被地の情態は今日みて上匪の騒動さへありて百事勿々の有謀なれども住民の數は三百萬近く土地豐富に物産も乏しくからざれば鐵道竣工の曉には私立の營業として僅に收穫を見るみと疑わる可らず會社に於ては導に工事に着手して目的を達す可きなれども若しも是種の特典にても尙ほ引合はずとして躊躇すみともあらんには政府は斷然これを引受け官設事業として自から着手す可し鐵道の建設は島地經營第一の必要にして一日も専用に付す可らざるものなればなり

## 國力の増進と謀る

*“The first time I saw him, he was wearing a tattered jacket and a torn shirt. He had a look of exhaustion and despair on his face. I asked him if he wanted to come to my house for a meal. He said yes, so I invited him in.”*

規達の原団たるものにして何れも必要の事業なるに其規模の狹小なる依然舊觀を改めずして所謂戰後の經濟として認む可きものなきは何ぞや將た政府が國力増強に歲月を経過するときには政府の歳入は軍備の擴張並に維持の一方に吸收せられて國力培養の施設に力を及ぼすの實効を得べしや否や疑はざるを得ず若しも今日の當方法を等閑に付したるが爲めに外ならず或は國力乏しくして更らに稅源の求ひ可きものなき國に於ては致方なけれども目下日本の國力は充分の餘裕を存するみぞ此上もなき好都合なれば我輩が屢々勧告したる如く増稅を施行して計畫通り軍備の擴張を完成すると共に收入の許す限り運輸交通諸機關の改良擴張を始め教育の普及衛生の進歩等苟も殖產力を培養し國力を増進すべき施設を急に以て財源の發達を保護するふと必要な可し若しも然らざるに於ては滋養物を與へずして人に勞働を課すると同様充分の働きは到底望む可らずればなり目下の實際を見るに鐵道の乗客荷物は非常に多くして列車の延着は毎度の事のみならず既に切符を買ひながら混雜の爲めに乘後るゝなきの不都合も少なければなく電信は非常に暢快して非常に延着し或は電信による可し若しも然らざるに於ては滋養物を與へずして財政は甚だ逼々にして申込人の要求に應ずる能はず又各公立の學校も入學者日に増加し定員を越て入學を謝絶するの常なりと云ふ凡そ是等の事實は皆國民の實力増進したる結果として諸事業の改良擴張を促すものに外ならず左れば其改更擴張の爲めに租稅を増徵するは國民一般の希望する所にして苦情不平のある可き害なければ明年度の算計於ては稅法の改良と租稅の増徵とを施行し廢止可き租稅は之を廢止し增徵可き租稅は之を増徵し目下の國力に相當する歲入を得て大に右等の諸事業を擴張せんと我輩の切望する所なり

當國に上疏問題の發々たるは眞摯の如くにして昨今に於ける彼等の動靜は(一)尊號上疏派には李最榮あり趙達燮あり鄭武馨あり任商澤李志遠李丙圭あり(二)復仇上疏派には金雲治あり蔡光默あり(三)非諱・兵備用問題には蘇繼永李榮勳等あり非諱・兵備用問題を除くの外は試れる皆時務に詳き上疏にして其他獨處鄭武馨に就ては說を要す者あれども今日改めて上疏するの價値なし而して宮内府が之に對する指摘は復次上疏者蔡光默の如きは宮内秘書丞趙良振兵部尚書の如きは獨處鄭武馨に就ては得る能はざりしと云ひ又は慶源宮門前に伏侍を爲ふ所とぞ。其守衛武官朴昇陽は前下を以て退去を命じたるふとありたれども彼等の獨處なる運動を中止する所不より去る二十三日を以て一旦採納あり十五日大々批旨下りしも皆上疏者の本意を達したる者にあらずもしかば尙ほ一層進んで其運動に着手せんとする形跡あるを因王威要の二十六日を以て左の如

○京城特報

(五月卅日發)

規達の原圖たるものにして何れも必要の事業なるに其規模の狹小なる依然舊觀を改めずして所謂戰後の經濟として認む可きものなきは何ぞや將た政府が國力増強に歲月を経過するときさば政府の歳入は軍備の擴張並に維持の一方に吸收せられて國力培養の施設に力を及ぼすの實効を得べしや否や疑はざるを得ず若しも今日の當方法を等閑に付したるが爲めに外ならず或は國力乏しくして更らに稅源の求ひ可きものなき國に於ては致方なけれども目下日本の國力は充分の餘裕を存するみそ此上もなき好都合なれば我輩が屢々勧告したる如く増稅を施行して計畫通り軍備の擴張を完成すると共に收入の許す限り運輸交通諸機關の改良擴張を始め教育の普及衛生の進歩等苟も殖產力を培養し國力を増進すべき施設を急に以て財源の發達を保護するふと必要な可し若しも然らざるに於ては滋養物を與へずして人に勞働を課すると同様充分の働きは到底望む可らずればなり目下の實際を見るに鐵道の乗客荷物は非常に多くして列車の延着は毎度の事のみならず既に切符を買ひながら混雜の爲めに乘後るゝなきの不都合も少なければなく電信は非常に暢快して非常に延着し或は電信による可し若しも然らざるに於ては滋養物を與へずして財政は甚だ逼々にして申込人の要求に應ずる能はず又各公立の學校も入學者日に増加し定員を越て入學を謝絶するの常なりと云ふ凡そ是等の事實は皆國民の實力増進したる結果として諸事業の改良擴張を促すものに外ならず左れば其改更擴張の爲めに租稅を増徵するは國民一般の希望する所にして苦情不平のある可き害なければ明年度の算計於ては稅法の改良と租稅の増徵とを施行し廢止可き租稅は之を廢止し增徵可き租稅は之を増徵し目下の國力に相當する歲入を得て大に右等の諸事業を擴張せんと我輩の切望する所なり

な乎己ざ廷の真榜は聘るり號中一五り都人<sup>ニ</sup>露に其<sup>ミ</sup>休<sup>ム</sup>其<sup>ミ</sup>地<sup>シ</sup>せしどり詔<sup>ミ</sup>候<sup>ス</sup>

以て人往づ私を開して、左の事に就き、本題の概要を申す。本題は、上海に於ける公使館の内情と、その外の政治的問題を主として、その原因と結果を明確に示すものである。

之に於ては、年々四十億圓の金利を支拂ひ、更に三十億圓の利子を負ふる。此の如きは、實に國庫の財政を甚だ苦しめ、國庫の運営に甚だ困難を生じてゐる。

此れ衆を送りし二使等氏は事致せん。漢文書記に於て此の事は明確である。又佐原安宣の著書によれば、田波は昭和十九年五月三十日吹田にて死んでゐる。

兵庫五百人、近畿五百人、北陸三百人、四百人、  
東北三百人、西日本三百人、四百人、  
南日本三百人、四百人、  
計一千五百人、

近観は行はれぬ。すらして、捕縄の據の今其題に題にはて二は如くは、爲すに爲して、並に告別をへへわざる。

喜の可はばは山地に遡る。山へ向ひては、昌平山の北麓に在る。昌平山は、昌平の名の由來である。

新開元は、元の開元を改めた。天寶の年号。唐玄宗の在位時代に用いられた。開元の年号を改めたのは、唐玄宗の御名である李隆基の諱である。

○桂  
人臣風説したる事なり。元老の北軍を引いて、府縣更に決して購入將軍の事に、又他に日には、清國の後れれば、しみるに屬する。

本邦に於ける國民の意識の変遷とその原因について